

## 会 議 録

会議名 (付属機関等名)	令和5年度 第3回川西市参画と協働のまちづくり推進会議		
事務局(担当課)	参画協働課		
開催日時	令和5年9月22日(金) 午後7時から午後8時半		
開催場所	川西市役所 2階 202 会議室		
出席者	委員	岩崎恭典、田中晃代、藤本真里、松原利明 柏村千尋、大西僚、丸谷満、山中彩永	
	その他	市民活動センター(男女共同参画センター):指定管理者 三井ハルコスーパーバイザー	
	事務局	井上公室長、西川副公室長、 岸本参画協働課長、山元同課課長補佐、長見同課主任	
傍聴の可否	可	傍聴者数	1 人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<p style="text-align: center;">1 開会</p> <p style="text-align: center;">2 議事</p> <p style="text-align: center;">(1) 第3期川西市参画と協働のまちづくり推進計画答申案(計画案)について</p> <p style="text-align: center;">3 閉会</p>		

19 : 00～

## 1 開会

### ○事務局

事務局進行

委嘱状を机上配布

柏村千尋様の委員就任の報告

川西市参画と協働のまちづくり推進条例第 10 条の規定により、本会議は公開となる。

なお、本日は委員が 4 名欠席の連絡をもらっている。

出席委員は、定数 12 名中 8 名（1 名 WEB による出席）

本日は、川西市市民活動センタースーパーバイザー三井ハルコ様がオブザーバーとして出席。

それでは、ここからは岩崎会長に進行をお任せする。

### ○岩崎会長

本日の出席委員は、定数の過半数に達しておりますので、川西市参画と協働のまちづくり推進条例施行規則第 7 条第 2 項の規定により、本日の会議は有効に成立している。

## 2 議事 (1) 第 3 期川西市参画と協働のまちづくり推進計画答申案(計画案) について

### ○岩崎会長

それでは、議事に入りたいと思う。事務局から説明をお願いします。

### ○事務局

資料 1 説明 （7 月 27 日推進会議からの変更した箇所中心に説明）

### ○岩崎会長

今日そして次回あと 2 回機会がある。ただ、次回はこの会議として市長に計画を作りますということ粗々はまとめておきたい。言って頂ける機会は今日これが最後になる可能性があるため、第 5 章、第 6 章を中心に、是非みなさんにはご意見をいただきたい。

## ○藤本委員

前回の時、これまでやった内容はきちんと押さえておく方が良い。このトリカワカードの書き方では、何をこだわってやったのかが分からない。もう少し目的をはっきり書いて、出来たらマッチングカードも入れてもらいたい。トリカワカードが全然関心のない人に対してどうしたら自分ごとになるのか、そういう重要な課題を書いてもらいたい。

参加した市民がこだわったことが書き足りていない。チラシを小さくしたら文字は分からない。もう少し真の目的が伝わる方が良い。推進計画を作りながら、市民とともに色々なことに挑戦し、成長している、ある意味プロセスが見える。今はこういう段階にあるのではないか。そのことが分からないといけないと思う。

## ○岩崎会長

今回入れて頂いているが、その狙いであるとか振り返りなので、きっちりとお願いしたいということ。単に絵になっている。マッチングカードも事務局の方に検討してもらいたい。

## ○田中委員

文字が大きくなって見やすいのは非常に助かる。

まず様式として、11ページの市民アンケート調査。地域への関心度では、構成比の未就学児だけ数字が入っている箇所が気になった。

アンケート調査の結果があっさりと書かれている。例えば12ページのところ、地域活動への参加について、地域参加しにくい理由に時間がないとあるが、時間がないというのは優先順位が単に低いだけではないかと思ったりする。時間は作るものだと思うため、あっさり書き上げているので、もう少し丁寧に書いてあげるのが良いと思う。時間がないという理由が本当に妥当なのかという気はする。

第6章のところで、市が参画の取組みを行っていることと書いてあるが、24ページに参画の取組みのところにパブリックコメントと書いてあり、25ページのところ、やはり参加するってところで参画の取組みを行ったことがある市民の割合と書いてある。市民の

方が見られると、参画って、参加とどう違うのかと。参画って計画などに関わることだと思う。説明しなくてもこれで分かるのかという気がした。

全体像からして第1章と第2章と第3章の内容を受けて、第4章、第5章、第6章につながっていくストーリーだと思う。淡々と章が展開していくため、分かりやすいストーリーやフローチャートみたいなのがあれば良いと思う。

### ○岩崎会長

11ページの数字が入ってないのは、どういうことになるのか。

### ○事務局

本来は入るものだと思うため、確認させていただく。

### ○岩崎会長

時間がないのは1番多いが、地域活動に参加するための時間はある意味つくるしかなくかたちではある。これが自分ごとと捉えれば時間は出来るもの。

いかに読み解くか、ほんの少しでも良いから事実、数字を読むだけでなく、これを計画に落とし込む時はどのように解釈するか、あっても良いのかもしれない。自分の中で優先順位をあげられるような方策を考える必要がある。

このような現状だが、これを自分ごととして捉えるにはこういう事が必要。行政はこういう事をやる。市民はこういう事をやる。住民や市民団体はこういうことに注意してやっていくという最後のところにつながっていく話だと思う。

### ○田中委員

1章、2章、3章の中で課題が出てくる。その課題を解決するために、4章5章6章が、ある程度その課題を受けるかたちで解決策につながっていくと思う。

### ○田中委員

参画ってパブリックコメントだけでなく、もっと広い意味があると思う。参画という言葉の定義をしておいた方が良いと思う。

### ○岩崎会長

令和5年10月の市民実感調査でどういう聞き方をしているか。

### ○事務局

聞き方として、この参画の取組みを行ったことがありますかと聞くことは、分からないことになるかと思う。参画の説明をしても難しくなってきたりする。パブリックコメントであったり、アンケートに回答するであったり、このように審議会の委員になったことがある人、といった聞き方でさせていただこうと思っている。

### ○田中委員

参画のイメージが私自身は政策的な審議会に関わることを参画っていうイメージがある。計画を作ることに関わっていくと思っていた。アンケートに答えるのは参加、その参加、参画、協働のあり方とか違いがよく分からない。たとえばアンケートに答えるのが参画ですかっていうところ。ただ何かを企画するや考えるといった時にそれは参画だと思う。みなさんはどう思われるのか聞きたい。

### ○山中委員

調べただけの話で言うと、参加が単にそこに集っている、参画は事業の取りまとめなどを行う時に使う様である。市民アンケートでは、何かの活動に参加したことがありますかと聞いた方が、自治会に参加、NPOに参加で、次に参画する立場になって参加者を募る立場になるのではないかと考えた。参加で聞いた方が良いと思う。

## ○岩崎会長

参画と参加っていうのは微妙にニュアンスが違うことは、どこかではっきりしといた方が良いのかもしれない。

## ○事務局

今参画と協働の取組み状況を市の方でやっている。アンケートの数、市のアンケートを実施したものの数も集計には入れている。

参画は、条例の中の定義で、市の政策等の立案実施評価の過程に主体的に関わって意見を行うことですので、コアな参画という部分から少し広く取ってしまっているのかもしれないが、そのあたりも含めて今回この計画で数字を集めて入れたいと思っている。計画を見た時にこの参画という言葉が分かりにくいという点もあるので、そこは少し詳しく記載させてもらった方が良く思っている。

## ○松原委員

参画という話が出たが、実は来月明峰フェスティバル開催する。表紙でアンケートを取っている。何も関心のない方、せめてお越し頂きたい。アンケートに書いていただきたい。

質問は、あえて「日頃から自治会活動に参加していますか。」はい、いいえだけの二択。他は4段階5段階選択肢あるが、あえてここは2択にしている。あえて2択で、これ答えて頂くと粗品差し上げますと書いている。せめてこれを書いて頂いたら参加していただいたことになる。そういう気持ちで作った。これまでは来て頂いたら商品を渡すだけでしたが、これでも参加したことになるのではないかという考えの中で作成した。

## ○岩崎会長

参加というのがとても広い概念で、その中で参画と言うと、少し積極的に物事に関わるのがどうも参画と言う部分で、参加というのは与えられたアンケートに答えていくのも含めて参加だと思う。

参加と参画で必要なことは、関心を持つことが前提。関心を持って少し反応をするのが

参加で、その参加をふまえて色々と自分で動いてみるようなところまで行くのが参画。ニュアンスの違いと言うのがどうもあるのかなという感じ。

参画があつて次に協働がある。その方向で川西は動いていると、ということも、基本的な考え方を少し入れておいてもらった方が良い。単なる参加ではなくて参画を、そして協働をめざす。協働は今でもやってる訳だから、それを多様な場面での多様な主体による協働を実現していく。第3期の目標にひとつ入れるのもあるかもしれないと思った。

ただ、今私の発言は思いつきの部分なので、そこは事務局でもう少し練って欲しいと思う。参加と参画は考えておいたほうが良いと思う。

### ○丸谷委員

回答数の全体数を表す(n=)っていう位置がグラフ毎にバラバラになっている。グラフで使われている色も似てますし、グラフの形は統一されたほうが良いと思う。

このグラフは分かりにくい。グラフがすごく細かくアンケート項目で出来ているが、詳しくとられているわりには説明文が少ない。全体的に調査結果は見づらいといった印象が残った。まず形を統一するところから始めて、誰でも分かりやすい解説をしっかりと入れた方が良いと思う。

### ○事務局

確認不足で申し訳ありません。全体的にもう一度見直させていただく。

### ○岩崎会長

14ページのところで、現状で一応課題を4点でまとめているが、次につながるようなかたちでもう少し詳しく書いても良いと思う。

### ○丸谷委員

グラフは解説を読むためのデータであるため、現状の一番下の四角だけでも良いと思う。ページが増えると読んでくれる人はいないと思うが、もう少し言えることがあるので

はないか、大事な部分にページがあった方がいい。

17ページは余白がある。余白があると安心するが、正直言って色がグラフに使われている色と似ている。色が分からない方にとっては非常に見づらい資料かと思った。もう少し色数を減らすか、もう少しメリハリをつける方が良い。現状のところはもっとしっかり作った方が良くと思う。

## ○事務局

強調すべきところとそうでないところとメリハリをつけて、あと色の関係ももう少し考えないといけないところだと思う。そのあたりやらせていただきます。

## ○岩崎会長

アンケート調査はどこまでを分析していくかが難しいが、例えば13ページの特に参加していない人が58.8%居るっていうこと自体が大きな課題である。これが今の川西の特徴なので、ある意味1番最初にきても良い話。

メリハリの付け方や、その後どのようにしていくかといった構成の仕方があっても良いと思う。市民団体アンケートになるとすごく簡単な話になってきているため、少し見せ方として考えて欲しい。

## ○田中委員

24ページ25ページの指標について、令和13年度を目標にして目標値の根拠は何か。

例えば指標で仕事を進めるうえで「参画と協働」の取組みを行ったことがある職員の割合を8年後に10%増加の目標値があげられている。全ての目標値の根拠が必要だと思う。例えば最近EBPMと言って、エビデンスに基づく政策立案がかなり言われてきている。この数字が8年後の数値の目標値にあげる、何か根拠を教えてください。ないならばどのような計算をして目標値にあげているのか分かればありがたい。



## ○事務局

こちらのところは100%にするかどうかは悩んだ。実際、職員アンケートをとる。なかなか取り組みにくい部署も実際存在する。また新入職員という意味でも、まだ取り組んだことがないという職員も存在するため100%は難しいのではないかと考えた。10%増やしていくところで90%を目標にさせていただいた。

## ○田中委員

この指標そのものが問題ではない。根拠や、どのように算定したのか、例えば1年でこれくらいで、かける8年なため、これくらいの%になるだろうといったことで良い。その考え方が庁内であってこの目標値が出てははず。個別の話は別に追求してるわけではなく、それぞれあると思う。算定をどのように出されたか気になっている。

これだけ世の中がエビデンスに基づく政策立案と言ってる中で、総合計画も含めてどの計画でも目標値の決め方をどうしているか、市民の方も考えてる方はおられる。算定基準はどうかと聞かれた時に、このように設定しましたや、今までの数字からだ8年後はこのようなになる。そのくらいで良いので考えていただければ。もしエビデンスがあれば教えていただきたい。

## ○岩崎会長

ある程度根拠は明らかにしておいた方が良いということ。

## ○事務局

この数字を置かせてもらっているのは、最終年度にはここに達したいことをまず考えさせていただいた。2期計画でその数字を置いていたが、まだ達成出来ていないので同じ数字を置かせていただいた。講座の受講者数は、現在は講座の数と定員から考えて、定員満員を想定し作らせていただいた。

## ○田中委員

ここに書き込むかどうかは別にして、大事だと思う。行政側で目標達成が出来ない場合は説明責任があると思う。説明が出来るようにしておかないと困るといった話。

## ○岩崎会長

そこは行政の中で持っておいて。

## ○藤本委員

この計画づくりの初期の時、市民が何か提案した時に市の中で実現したといったプロセスが見えることが重要だと言われて、確かにそうだなと思った。令和1年から3年、3年間もやってきたトリカワカードが、第2期推進計画の中の取組み項目にはあがっていない。

例えば3ページのまちづくりラウンドテーブルをやってる様子、表を見るとまちづくりラウンドテーブルの開催がある。市民ファシリテーター養成講座はどの取組み項目なのか。トリカワカードは3年間も取り組んだため、取組み項目に入ってるはず。

この計画の中で取組み項目に入っていないのはおかしい。それをきちんと分かりやすくして、第3期計画を見た時にこれが実現してこんなことが出来たから次の取組み項目でワンステップ上がった。トリカワカードなどに関わった人が見ることもあると思う。その人たちが、第3期計画を見て、こうなったんだと分かるようにした方が良い。また職員はそれを説明できないのはおかしいと思う。あの3年間の取組みが、取組み項目のどれなのかをはっきりと書かないといけないと思う。

## ○岩崎会長

職員がその時点から変わっているため、必ずしも十分伝わってないのかもしれない。全く関心のない人をどうやって地域の課題に関心を向けていくか、そのためにはこういうものが必要であり、ゲーム環境で出来る事があるのではないかと考えてきた。その成果があり、今回の計画につながっていくということ。

## ○藤本委員

実際トリカワカードはどの取組み項目になるのか。意識の向上の一環なので、位置的には基本施策の4番なのか。それとも複合的にふたつを含めてということもあると思うが。

## ○事務局

実際、この取組みが直接的に書かれてる訳ではないかと思う。その取組みが始まった時は、公募の委員より多くの提案をいただき、何か新しいものが生まれるところをやっただけ話をさせてもらった。担い手の確保の部分や、市民の参画を促していくことをやらせていただいた。やはり複合的な部分で取り組んだところになるのかと思っている。

## ○藤本委員

行政から、考えるのでどうですかと集ってもらい、それに賛同した若い人たちが来ていたりしていた。あのムーブメントは、いかすことが重要であり。書く意義があると思う。

関わった人が、何のためにやったのかという感じ。施策で評価目標に影響しましたや、そのようなシナリオを意識し、見せていくことが大切だと思う。少しデリケートに考えた方がよい。計画上位置づけて次の計画にも活かしていく態度が重要だと思う。もう良い人は来なくなる。

あの時は、とても意識の高い人が来たと思う。やってみると、行政の人も一緒にやって、面白いこと出来たと思っていて私も嬉しかった。その後のことが分からないみたいな状態になることは、とてももったいないと思う。そこはすごく丁寧に対応する必要があり、とても大切なことだと思う。

## ○岩崎会長

活動が推進計画の中でどのように位置づけられて、今回の第3期推進計画に反映しているかという点で、2年間の総括は是非入れておいていただきたいのが前回、今回のひとつ大きなポイントになるのかなという気がする。それがあれば次のステップとして第3期のストーリーも出来てくるのではないかと思います。ご配慮いただきたい。

## ○丸谷委員

29ページ。この推進計画の冊子をどの層にメインで読んでもらいたいかで変わってくると思うが、取組みや参画と協働の歩みと言葉が出ているが、この付箋に3色使われているのが読み取り出来なかった。近所を散歩するのがまちづくりを良くする取組みの一環だと書かれてると思う。

近所を散歩することはさすがに参画ではないと思う。小さなことが参画と協働の歩みを進めるきっかけになると、このホワイトボードは示しているのかと思う。もっと前の方に持っていき、何が参加で何が参画なのか、市民がどのあたりまで始めたらいいいのか、市民に読んでもらいたいのであれば、このようなページをもっと最初に持ってくる。

関心を持って人々に今の実態を知ってもらい、今後の進め方を知ってもらい、こういふイラストではなく簡単に箇条書きみたいな感じでも良いと思う。

人に見てもらわなければ自分でここに追加して書くことはあまりないと思う。

自由に記入してみてくださいって書かれてると思うが、フリーページみたいなものにするのはもったいないのではないのか。もっと全面に出して、まちを良くしていくための行動につながることを思ってもらいと、時間がないから参加したくないってアンケートに答えてる人が、これなら私がやっていたとなり、意義がある冊子になると思う。市民に読んでほしいのであれば、この冊子を誰に読んでもらいたいかによって構成が変わってくると思う。ここに書いてあることは、さきほどの参加と参画の違いを考えると非常に分かりやすいと思う。この使い方は、少しもったいないと思う。

## ○岩崎会長

市民向けにアピールする時にそれを最後に出すやり方なのか、それとも近所を散歩することも地域活動に参加する一歩になる、参加ってこんな簡単なところから始まるんだと最初に出すのか。

第2期はこんな感じで進めてきた。無関心な人たちに、いかに地域活動に参加してもらえば良いかということはこの推進会議でも検討した。それをふまえて各主体が色んなことをやらないといけないなど、第3期はこのようにしていきたいというものが、この1枚見

て分かるような感じで書いてあると1番望ましい。

### ○丸谷委員

時間がない人はそもそも興味がないので、その方に読んでほしいという仕掛けになる作り方をしなくても良い。興味を持って人を伸ばしていくのが良いと思う。参加の仕方が分からない方には、タウンミーティングへの参加はイメージしやすい。トリカワカードというものが作成されたことが分かれば、楽しそうな感じで膨らませて書くとイメージしやすい。興味があるけどまだ一步進めてないと思ってやってる人と、まだやってることに気づいてない人に読んでもらうのであれば、このようなことでも参加ですよ、みたいな感じで書いたら分かりやすくイメージしやすいと思う。

### ○山中委員

吹き出しのページがあると思うが、実際に市の活動とかボランティアとかNPOやグループで活動してる人の、やっていて良かったなどの口コミを書いた方が良いと思った。23ページ、口コミや実際の声があった方が自分が参加した時のイメージが出来たり、自分の行動によってどのようにまちが変わったのか考えやすくて行動するきっかけになるのではないかと思う。

### ○岩崎会長

こんな経験をしたら、どのようにまちが変わっていった、なお一層自分の自己肯定感が高まった話。

### ○山中委員

活動して新しい友人が出来たとか。

### ○岩崎会長

そのような発言を聞くことは可能だろうと思うが、時間的にどこまで出来るかというの

はあるだろうと思う。市民に対してアピールする、参加をするとこんな面白いことがあるということを市民に訴えかける計画に今なってきた。そこで多くの NPO やボランティアの団体の活動に参加している人たちの声を入れるとなお一層アピール力は増すだろう。そうすると推進計画が行政の作る計画から徐々にスタイルが変わってくる。

### ○大西委員

質問になるが、市の公式 SNS 登録者数の項目がある。目標値は先ほど世帯数とあったが、公式 SNS は多分ライン、インスタグラムかと。登録者がそもそも重複していると思う。届けるという意味合いで、市の情報が入手出来ているとかぶるのかなと思う。一方 SNS の特徴は双方向性だと思う。8年後となると、今ラインしていない人も増えてきたり、SNS という言葉も変わっていく可能性もある。何故この指標があるのか教えていただきたい。

### ○事務局

公式 SNS の部分、市の広報公聴課の方でも知ろうとしている。一緒に市民に情報を届ける意味あい、この指標を採用した。

ラインとかインスタグラムとか、延べ人数にはなってくる。多くの方が登録してもらえれば、市の情報も直接的に届けられるといった思いは持っている。8年後 SNS と言ってるのか、大きく社会が変わった時は、これを見直すことにもなるのかと思う。

### ○岩崎会長

これを指標として採用するのは、かなり時代として勇気のいることだと思う。

### ○岩崎会長

三井さん、何かお気づきのことはあるか。

### ○三井氏

参画と協働を進めるというのは理念を推進していくことだと思う。その理念がどのよう

に推進されていくのかをはかる尺度が、もう少し具体的に見える方が良いと思った。今は身近なところに力点が置かれていることが気になった。

26ページの「必要な取組み」で、市民、地域団体、市など様々な主体が取り組んでいくと書いてあるが、主語が様々だと思う。例えば市民活動センターの取組み内容を読むと、これは市民活動センターがやっていくことだと読み取れるが、1番最後に「センターのイベントなどに参加する」と書いてある。この主語は市民である。このように全部において主語はどこにあるのかが気になった。29ページも同様で、これも主語は誰なのか悩んだ。

### ○岩崎会長

主語をはっきりさせてないのかなと思った。最後のところであなたはどうしますかって自分自身に引き続いて考えてみて下さいといった提案になっていると思った。そのあたりはどうか。

### ○事務局

主語をあえて伝えていない部分多数ある。主語を言い過ぎると項目が多くなってくる。

### ○岩崎会長

市民活動センターと書いてあれば市民活動センターの仕事だとみんな思い、自分には関係ないと思うことにもなる。

### ○事務局

最初分けてやっていたが、分けたなりの課題があり、分けるよりもこれは市民しかしないこと、これは市しかしないといったように見えてきた。そのためこのようなかたちで表現させていただいた。

### ○岩崎会長

そうするとその注釈は必要。

### ○三井氏

参画と協働が推進してるかの尺度をどのようにはかるのか、曖昧にはならないかと危惧する。

### ○事務局

理念で言うと、参画と協働とは、大変大きなテーマだと思う。進めるのか進んでないのかはかるのがいつも難しい。いつもどのようにかろうかという話はさせていただいている。

今回指標のところでは、多くのところで数字があがらないとか分からないことにもなることもある。具体的な数字の部分で重ねていき、少し身近な取組みに注目して、身近なところからこの基本的な考え方やめざす姿を、みなさんに始めていただいた。そういった人が増えると、参画と協働を進めていくのではないかと話をさせていただいた。少し身近なところをやっていけたらと思っている。

### ○三井氏

この課題はセンターの日々の事業や毎月の「行政との調整会議」でも色々話し合いをしている。

推進しているかどうかをはかるのはなかなか難しい。例えばいろんなイベントが多くなってきたとか、何かやりたいと思う人が増えてきた、まち全体に活気がわいてきているとか、そのような方向性が見えてきた時に川西市の参画と協働が進んでいっていると思えるのではないかと。より良い尺度が出来ていくことを願って、それが出来たらセンターも一生懸命やらせていただく。

### ○岩崎会長

どのような尺度で、はかるかだと思う。



## ○事務局

今答えを持っていないが、他市の事例を見ると具体的な数や講座受講者数が計画に出ている。研究と言うか、いかにはかかっていこうか。はかれるものとはかれないもの、概念的にはあるが、実際どのようにはかるか難しい部分もあり、費用の問題もあったりする中でいかにしていくのか、今後考え続けていくことだと思っている。

## ○藤本委員

行政の施策、全般評価尺度を出すことは、大変難しい。川西市はすごく進んでると思う。市が持つ施策のレベルが高い。良いパートナーもいる、パートナーと一緒に考えて光る施策を行うと、川西ってこのようなこともできるになると思う。やることをいくら尺度といっても難しいと思う。市全体で、関心のない人にも何か行っていき、大変意識の高い人にも何かを行っていく。

打つ施策で川西市のレベルが見える。センターや市民にお任せしたプログラムが動いていくとか、そのような尺度で参画と協働が進んでいると言えないかなと思う。推進計画作らなくてもいいのではと思う。1歩目に返ってというのを繰り返す。川西の場合はレベルの高い人もいるため、他のまちではやっていないことをやる。市民活動をやってる人が市と一緒にあって、やっているのを見せることが出来たら、推進計画が進んでいることにならないかと思ったりする。

## ○岩崎会長

そこは難しいところだし、それを今のこのペーパーに落とし込むことは、より一層難しい。川西というこの土地柄から言うと、地域活動をこれから市民が積極的に進めていくために、お金の話は絶対ある。お金の話はなかなか市が絡んだ計画では出てこない。

その時に、休眠預金もあれば遺贈もある。民の基金を作って民が民を支援していくみたいなものがひとつシンボル事業としてあれば、さすが川西だとなっていく。

その延長線上にそのようなシンボル事業があったらまさに参画と協働のシンボルになっていくと思う。川西だからこそ遺贈はものすごく期待出来ると思う。

### ○三井氏

10年前に、市民基金の組織として、兵庫県内の中間支援 NPO 法人など6団体で「公益財団法人ひょうごコミュニティ財団」を立ち上げた。今も評議員をやっているが、連携して多くの講座を兵庫県全体でやったりしている。既存で立ち上げたところと一緒にということは、可能かもしれないと思う。

### ○岩崎会長

お金をまわしていく話も絶対これから必要だと思う。

今日の議論の総括で言うと、第2期の振り返り、関心を持たない人をいかに関心を持たせるようにしたかといった具体的な手法まで考えたことを少し評価の中に入れて欲しい。だからこそ、次のステップで今度の推進計画で自分ごととしてこの様々な主体の力が発揮出来る仕組みを増やすこと自体が目的になる。

要するに関心を持ってもらえれば、色んなことをやってくれる人が川西には沢山いるということが分かった。その人たちをいかにつなげて力をまとめていくか、情報を知らせることも当然必要であり、ラウンドテーブルなども作っていくということも当然必要になっていく。それももちろんであるが、参加、参画の機会を提供することが必要。

26ページ以降の様々な主体が色んなことを今やろうとしている。それを市民のみなさんが選ぶなら、このようにして選んで下さいと最後のページにホワイトボードが入っている。

参画と協働を説明するために、何枚かのホワイトボードを最初に持っていき、最後にもう一度再掲しても良いと思う。対象者は市民で、市民が動くことを基本とする計画にしたことから、無関心な人が読んでも、あるいは関心をよせてる人が読んでも役に立つものにしていかないといけない。行政が作る堅苦しい計画では徐々になくなっていく。

既存の計画と様子は違う。これが川西の参画と協働の推進のためには必要な計画だということを市長に答申する時に言わないといけない。少し異質なものになっていく可能性があるが、それはそれで構わないだろうと思う。

## ○丸谷委員

必要な取組み内容は、もう少し文字の数を減らさないと読むのが大変。

市役所の方が細かく分かりやすく伝えたいという思いは分かるが、この言葉を削ったら良いのではないかと思う。例えば対話と交流の場づくりで、ミーティング行う、ワークショップ行う、最後にミーティングやワークショップなどに参加するというのが、先ほどのあえて主語を曖昧にしたということが重要ですが、ここは行うと参加するを分けても良いと思う。もう少し簡潔に箇条書きにするか、箇条書きの間をもう少し空ける方が良いと思う。2～3回読み、思ったことをお伝えしたい。

## ○岩崎会長

頭に入りづらいひとつの原因は主語がないこと。そこを最初に書いておいた方が良い。それはみなさんに対する問いかけで、もう少し書き方に工夫が要るかもしれない。この26ページから29ページまではひとつの推進計画のポイントになるため、もう少し検討してもらえればと思う。

## ○三井氏

15ページ、川西市市民活動センターに多くのスペースを割いていただいてありがたい。市民活動センターの後ろに括弧してパレットかわにし内と入れていただきたい。パレットかわにしという名称は結構知られており、市民活動センターだけではなかなか覚えてもらえないため、入れて頂けるとありがたい。

もう1点は、全体にわたって元号と西暦を併記した方が良いと思う。西暦にすると何年前というのがすぐ計算出来るため、どうかと思った。

## ○岩崎会長

今日は沢山の宿題をみなさんから出していただいた。必ずしもあと1ヶ月の間にそれに全部答えられるようなかたちでこの推進計画が見直せるかどうかというのは厳しいかもしれない。ただ、こういうことが残ってるんだということを明らかにしても良いと思う。

今回の第3期の推進計画を策定する際に、こんな意見があったが、これについては次に送りますといったかたちで処理しても全然問題ないと思う。

これは別に行政が市民に対して約束する計画ではない。行政と市民が協働して何かをするための約束ごとの計画である。その約束の中で、次の推進期間の間に実現できそうにもないけれども、これ重要だよってことを次の期に送ることをあえて書くことも構わないと思う。議会ではどういうことかとなるかもしれないが、それは市民と参画と協働で作った計画だからこそ、このような書き方をしている。事務局には申し訳ないが議会答弁出来るようにしておいて欲しいと思う。

本日はここまでとさせていただきますと思う。

### **3 閉 会**

#### **○事務局**

次回の推進会議は、10月20日開催を予定

(20:30終了)